

平成30年度4月入学

平成29年度10月入学

九州工業大学大学院生命体工学研究科

博士後期課程 学生募集要項

一 般 選 拔

社 会 人 特 別 選 拔

外 国 人 留 学 生 特 別 選 拔

国立大学法人九州工業大学

大学院生命体工学研究科

平成30年度4月入学・平成29年度10月入学試験日程

【一般選抜】

【社会人特別選抜】

【外国人留学生特別選抜】

	事前審査出願期間	願書出願期間	選 抜 日	合格者発表日
第1回入学試験 (面接試験)	平成29年5月15日(月) ∩ 平成29年5月19日(金)	平成29年6月8日(木) ∩ 平成29年6月15日(木)	① (若松会場) 平成29年7月1日(土) ② (東京会場) 平成29年6月30日(金)	平成29年7月7日(金)
第2回入学試験 (面接試験)	平成29年7月3日(月) ∩ 平成29年7月7日(金)	平成29年7月31日(月) ∩ 平成29年8月4日(金)	平成29年8月26日(土)	平成29年9月5日(火)
第3回入学試験 (面接試験)	平成29年8月8日(火) ∩ 平成29年8月21日(月)	平成29年9月6日(水) ∩ 平成29年9月13日(水)	平成29年9月30日(土)	平成29年10月6日(金)
第4回入学試験 (面接試験)	平成29年12月11日(月) ∩ 平成29年12月15日(金)	平成30年1月12日(金) ∩ 平成30年1月18日(木)	平成30年2月3日(土)	平成30年2月9日(金)

※ 平成29年度10月入学試験は、第1回及び第2回で実施します。

※ 第3回入学試験の事前審査出願期間の内、8月14日(月)～8月18日(金)は、窓口での受付は行いませんので、郵送にて出願ください。

※ 定員を満したした場合、以降の募集は行わない場合があります。

必ずお読み下さい

※本学生募集要項に関して、追加事項等がある場合、本学ホームページにて随時周知しますので、出願前によく確認してください。

※平成30年度4月入学・平成29年度10月入学大学院生命体工学研究科博士前期課程の学生募集に関して、予告する事項がある場合、本学ホームページにて随時周知します。

九州工業大学ホームページ <http://www.kyutech.ac.jp>

目 次

I 平成30年度4月入学

1. 募集人員	1
2. 出願資格	1
3. 出願期間	3
4. 出願手続	4
5. 選抜方法	7
6. 試験の会場・日時	7
7. 合格者の発表	7
8. 入学時に要する経費	8
9. 出願資格の審査申請について	8
10. 注意事項	8
11. 個人情報の取扱いについて	8
12. 安全保障輸出管理について	9

II 平成29年度10月入学

1. 募集人員	10
2. 出願資格	10
3. 出願期間	12
4. 出願手続	13
5. 選抜方法	16
6. 試験の会場・日時	16
7. 合格者の発表	16
8. 入学時に要する経費	16
9. 出願資格の審査申請について	17
10. 注意事項	17
11. 個人情報の取扱いについて	17
12. 安全保障輸出管理について	17

III 大学院博士後期課程アドミッション・ポリシー

18

IV 連携大学院インテリジェントカー・ロボティクスコース

について	19
------	----

長期履修制度について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

付表 主要教育研究分野一覧

1. 生命体工学専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

I 平成30年度4月入学

1. 募集人員

専攻名	講座名	募集人員
生命体工学	グリーンエレクトロニクス	36
	生体メカニクス	
	環境共生工学	
	生体適応システム	
	☆ グリーンテクノロジー	
	人間知能機械	
	人間知能創成	
	人間・脳機能	
	人間行動科学	
	☆ ヒューマンテクノロジー	

注1. ☆印：研究指導は、連携講座の研究機関において受けることがあります。

注2. 募集人員には、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜を含みます。

注3. 定員を満したした場合、以降の募集は行わない場合があります。

2. 出願資格

[一般選抜]

- (1) 修士の学位を有する者及び平成30年3月までに取得見込みの者
- (2) 専門職大学院の課程を修了し、文部科学大臣の定める学位を有する者及び平成30年3月までに取得見込みの者
- (3) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成30年3月までに授与される見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与されたもの及び平成30年3月までに授与される見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (6) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）

大学を卒業又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究機関等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めたもの

- (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同程度の学力があると認めた者で、24才に達したものと及び平成30年3月までに24才に達するもの

【注】 上記出願資格（7）又は（8）により出願しようとする者は、「9. 出願資格の審査申請について」を参照してください。

[社会人特別選抜]

企業等に在籍する研究者・技術者等で、大学等において志望の専攻と関連系統の専門教育を受けた者又は企業等で志望専攻の専門に関する経験を原則として1年以上有している者で、次の各号のいずれかに該当するもの

- (1) 修士の学位を有する者及び平成30年3月までに取得見込みの者
- (2) 専門職大学院の課程を修了し、文部科学大臣の定める学位を有する者及び平成30年3月までに取得見込みの者
- (3) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成30年3月までに授与される見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与されたもの及び平成30年3月までに授与される見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (6) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）

大学を卒業又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究機関等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めたもの

- (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24才に達したもの及び平成30年3月までに24才に達するもの

【注】 上記出願資格（7）又は（8）により出願しようとする者は、「9. 出願資格の審査申請について」を参照してください。

[外国人留学生特別選抜]

日本の国籍を有しない者で、次の（1）から（6）のいずれかに該当し、（7）の条件を満たすもの

- (1) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成30年3月までに授与される見込みの者
- (2) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成30年3月までに授与される見込みの者
- (3) 大学を卒業又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究機関等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めたもの
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24才に達したもの及び平成30年3月までに24才に達

するもの

(7) 出入国管理及び難民認定法に規定する「留学」の在留資格を有する者又は大学院入学後に在留資格を「留学」に変更可能な者

- 【注】① 日本の国籍を有しないもので、日本の修士の学位を有する者（平成30年3月取得見込の者を含む。）は、特別選抜の対象としません。
- ② 出願資格（3）又は（6）により出願する者は、「9. 出願資格の審査申請について」を参照してください。

3. 出願期間

下記の出願期間中に持参又は郵送してください。

受付時間は、午前9時から午後4時までです（ただし、土・日・祝日は受付しません）。

なお、郵送の場合は、本学所定の封筒により「速達簡易書留郵便」で期間内必着です。

願書提出先・問い合わせ先

〒808-0196 北九州市若松区ひびきの2番4号

九州工業大学大学院生命体工学研究科教務・入試係

電話 093-695-6006

	出 願 期 間
第1回入学試験	平成29年6月 8日(木)～平成29年6月15日(木)
第2回入学試験	平成29年7月31日(月)～平成29年8月 4日(金)
第3回入学試験	平成29年9月 6日(水)～平成29年9月13日(水)
第4回入学試験	平成30年1月12日(金)～平成30年1月18日(木)

4. 出願手続

出願しようとする者は、次の書類を一括取り揃え、所定の期日までに生命体工学研究科教務・入試係へ提出してください。

[一般選抜]

出願書類等	注 意 事 項
入学願書 受験票，写真票	本学所定の用紙を用い、太線内の必要事項を記入してください。
検定料（30,000円）	<p>ゆうちょ銀行の窓口、あるいはコンビニ端末で納付してください。</p> <p>ゆうちょ銀行の窓口で振り込む場合は、本学所定の入学検定料払込用紙（本要項綴じ込み）により振込みの上、「検定料納入証明書（受付局日附印が押されたもの）」を必ず受け取り、願書の裏面に貼り付けてください。</p> <p>コンビニ端末で振り込む場合は、本要項綴じ込みの「コンビニエンスストアでの入学検定料支払い方法のご案内」を参照の上、支払い、取扱明細書または取扱明細書兼領収書の「収納証明書」部分を切り取り、願書の裏面に貼り付けてください。</p> <p>ただし、出願者のうち、本学大学院博士前期課程修了見込みの者で、引き続き博士後期課程に進学する者及び日本政府（文部科学省）国費外国人留学生については、入学検定料は不要です。</p>
博士前期課程又は修士課程修了（見込）証明書	<p>出身学校が作成したもの。</p> <p>ただし、本研究科博士前期課程を修了（見込み）の者及び出願資格（7）又は（8）により出願する者は提出する必要はありません。</p> <p>なお、博士前期課程1年次在学者で、在学期間を短縮して修了する見込の者は、学府長または研究科長の発行する修了見込証明書を提出してください。</p>
成績証明書	<p>出身学校が作成したもの。</p> <p>ただし、出願資格（7）又は（8）により出願する者は提出する必要はありません。</p>
研究（希望）計画書	<p>本研究科における研究（希望）計画（1000字程度）を記入してください。（様式については、別紙参照）</p> <p>*本冊子公表後、教員の異動があった場合は、本学ホームページ（http://www.kyutech.ac.jp）にて随時お知らせしますので、よく確認してから記入してください。</p>
修士論文及びその概要	修了者は、修士論文及びその論文の内容を要約した概要（2000字程度）を提出してください。（様式については、別紙参照）
公表論文等の業績リスト	可能な限り、別刷を添付してください。（様式任意）
受験票送付用封筒	本学所定の封筒に、郵便番号、住所及び氏名を明記し、362円分の切手を貼り付けてください。
在留資格証明書(査証手続きの済んだもの)の写し、又は住民票の写し	外国人志願者のみ提出してください。ただし、現在外国に居住している志願者は除きます。
あて名票	本学所定の用紙に記入してください。

[社会人特別選抜]

出願書類等	注 意 事 項
入 学 願 書	本学所定の用紙を用い、太線内の必要事項を記入してください。
受 験 票 , 写 真 票	
検定料 (30,000 円)	<p>ゆうちょ銀行の窓口,あるいはコンビニ端末で納付してください。</p> <p>ゆうちょ銀行の窓口で振り込む場合は、本学所定の入学検定料払込用紙(本要項綴じ込み)により振込みの上、「検定料納入証明書(受付局日附印が押されたもの)」を必ず受け取り、願書の裏面に貼り付けてください。</p> <p>コンビニ端末で振り込む場合は、本要項綴じ込みの「コンビニエンスストアでの入学検定料支払い方法のご案内」を参照の上、支払い、取扱明細書または取扱明細書兼領収書の「収納証明書」部分を切り取り、願書の裏面に貼り付けてください。</p> <p>ただし、出願者のうち、本学大学院博士前期課程修了見込みの者で、引き続き博士後期課程に進学する者及び日本政府(文部科学省)国費外国人留学生については、入学検定料は不要です。</p>
博士前期課程又は修士課程修了(見込)証明書	<p>出身学校が作成したもの。</p> <p>ただし、本研究科博士前期課程を修了(見込み)の者及び出願資格(7)又は(8)により出願する者は提出する必要はありません。</p>
成 績 証 明 書	<p>出身学校が作成したもの。</p> <p>ただし、出願資格(7)又は(8)により出願する者は提出する必要はありません。</p>
研究(希望)計画書	<p>本研究科における研究(希望)計画(1000字程度)を記入してください。(様式については、別紙参照)</p> <p>*本冊子公表後、教員の異動があった場合は、本学ホームページ(http://www.kyutech.ac.jp)にて随時お知らせしますので、よく確認してから記入してください。</p>
修士論文及びその概要	<p>修了者は、修士論文及びその論文の内容を要約した概要(2000字程度)を提出してください。(様式については、別紙参照)</p>
公表論文等の業績リスト	<p>可能な限り、別刷を添付してください。(様式任意)</p>
業 績 報 告 書	<p>修士論文のほかに研究論文を有する者のみが記入し、原則として別刷及び業績概要を添付してください。(様式任意)</p>
業 務 報 告 書	<p>いままでに携わった研究・技術職について、その内容を詳しく記入してください。(様式任意)</p>
受 験 票 送 付 用 封 筒	<p>本学所定の封筒に、郵便番号、住所及び氏名を明記し、362円分の切手を貼り付けてください。</p>
在留資格証明書(査証手続きの済んだもの)の写し、又は住民票の写し	<p>外国人志願者のみ提出してください。ただし、現在外国に居住している志願者は除きます。</p>
あ て 名 票	<p>本学所定の用紙に記入してください。</p>

[外国人留学生特別選抜]

出 願 書 類 等	注 意 事 項
入 学 願 書	本学所定の用紙を用い、太線内の必要事項を記入してください。
受 験 票 , 写 真 票	
検 定 料 (30,000 円)	<p>ゆうちょ銀行の窓口,あるいはコンビニ端末で納付してください。</p> <p>ゆうちょ銀行の窓口で振り込む場合は、本学所定の入学検定料払込用紙(本要項綴じ込み)により振込みの上、「検定料納入証明書(受付局日附印が押されたもの)」を必ず受け取り,願書の裏面に貼り付けてください。</p> <p>コンビニ端末で振り込む場合は、本要項綴じ込みの「コンビニエンスストアでの入学検定料支払い方法のご案内」を参照の上、支払い、取扱明細書または取扱明細書兼領収書の「収納証明書」部分を切り取り、願書の裏面に貼り付けてください。</p> <p>ただし、出願者のうち日本政府(文部科学省)国費外国人留学生については、入学検定料は不要です。</p>
博士前期課程又は修士課程修了(見込)証明書	<p>出身学校が作成したもの。</p> <p>(英語又は日本語に訳したものを添付してください。)</p> <p>ただし、出願資格(3)又は(6)により出願する者は、提出する必要はありません。</p>
成 績 証 明 書	<p>出身学校が作成したもの。</p> <p>(英語又は日本語に訳したものを添付してください。)</p> <p>ただし、出願資格(3)又は(6)により出願する者は、提出する必要はありません。</p>
研究(希望)計画書	<p>本研究科における研究(希望)計画(1000字程度)を記入してください。(様式については、別紙参照)</p> <p>*本冊子公表後、教員の異動があった場合は、本学ホームページ(http://www.kyutech.ac.jp)にて随時お知らせしますので、よく確認してから記入してください。</p>
修士論文及びその概要	<p>修了者は、修士論文及びその論文の内容を要約した概要(2000字程度)を提出してください。(様式については、別紙参照)</p>
公表論文等の業績リスト	<p>可能な限り、別刷を添付してください。(様式任意)</p>
受 験 票 送 付 用 封 筒	<p>本学所定の封筒に、郵便番号、住所及び氏名を明記し、362円分の切手を貼り付けてください。</p>
在留資格証明書(査証手続きの済んだもの)の写し、又は住民票の写し	<p>現在外国に居住している志願者は除きます。</p>
あ て 名 票	<p>本学所定の用紙に記入してください。</p>
推 薦 書	<p>指導教員等が作成したもの。</p> <p>(英語又は日本語に訳したものを添付してください。)</p>

英語版の募集要項及び入学願書を必要とされる方は、本研究科のホームページ(<http://www.lsse.kyutech.ac.jp/>)を参照してください。

【注】国外在住者の面接試験については、e-mail (sei-nyushi@jimu.kyutech.ac.jp) 又は文書で生命体工学研究科教務・入試係にお問い合わせください。面接試験は、インターネット等を利用して実施することがあります。

5. 選抜方法

面接試験及び書類審査の結果を総合的に判断します。

・面接試験

修士論文又はそれに代わる研究論文、博士後期課程入学後の研究計画、専門学力、成績証明書の内容等に関して口頭試問を行います。

6. 試験の会場・日時

(1) 試験会場

第1回入学試験

① 九州工業大学大学院生命体工学研究科 (TEL 093-695-6006)
(北九州市若松区ひびきの2番4号)

② KKR ホテル東京 (TEL 03-3287-2921)
(東京都千代田区大手町1-4-1 11階 松の間)

※面接試験において、一部の面接員はインターネット等を利用して面接を実施することがあります。

第2回、第3回、第4回入学試験

・九州工業大学大学院生命体工学研究科 (TEL 093-695-6006)
(北九州市若松区ひびきの2番4号)

(2) 日時

	集 合 時 間
第1回入学試験	① (若松会場) 平成29年 7月 1日 (土) 午後1時
	② (東京会場) 平成29年 6月30日 (金) 午後1時
第2回入学試験	平成29年 8月26日 (土) 午前10時
第3回入学試験	平成29年 9月30日 (土) 午後1時
第4回入学試験	平成30年 2月 3日 (土) 午後1時

※集合時間に変更となる場合があります。受験票に記載された集合時間に従ってください。

7. 合格者の発表

	日 時
第1回入学試験	平成29年 7月 7日 (金) 午前10時
第2回入学試験	平成29年 9月 5日 (火) 午前10時
第3回入学試験	平成29年10月 6日 (金) 午前10時
第4回入学試験	平成30年 2月 9日 (金) 午前10時

午前10時頃より、ホームページ (<http://www.kyutech.ac.jp/>) 上に合格者の受験番号を掲載します。また、合格者には発表と同時に「合格通知書」等を郵送します。電話等による合否の問い合わせには応じられません。

8. 入学時に要する経費

- (1) 入学料 282,000円(予定額)
ただし、本学大学院博士前期課程を修了見込の者で、引き続き博士後期課程に進学するものからは徴収しません。
また、外国人合格者のうち、日本政府(文部科学省)国費留学生は不要です。
- (2) 学生教育研究災害傷害保険料 2,600円(予定額)
- (3) 後援会費 10,000円(予定額)

9. 出願資格の審査申請について

「一般選抜」及び「社会人特別選抜」の出願資格(7)、(8)並びに「外国人留学生特別選抜」の出願資格(3)又は(6)により出願する者は、必ず事前に生命体工学研究科教務・入試係へお問い合わせのうえ、次の書類を、下記の出願資格審査申請期間に提出してください。

- (1) 出願資格審査申請書(別紙様式1)
- (2) 出願資格審査調書(別紙様式2)
- (3) 研究実績(別紙様式3)
- (4) 研究歴申告書(別紙様式4)
- (5) 出身学校の卒業(修了)証明書及び成績証明書

審査の結果は、下記審査結果発送日に本人へ発送します。

	出 願 資 格 審 査 申 請 期 間	審 査 結 果 発 送 日
第1回入学試験	平成29年5月15日(月)～平成29年5月19日(金)	平成29年5月26日(金)
第2回入学試験	平成29年7月 3日(月)～平成29年7月 7日(金)	平成29年7月14日(金)
第3回入学試験	平成29年8月 8日(火)～平成29年8月21日(月) ※8月14日(月)～8月18日(金)は、窓口での対応は行いません。	平成29年8月25日(金)
第4回入学試験	平成29年12月11日(月)～平成29年12月15日(金)	平成29年12月25日(月)

10. 注意事項

- (1) 本研究科の詳細については、ホームページ(<http://www.lsse.kyutech.ac.jp/>)を参照してください。
- (2) 障害等があり、受験及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、なるべく早い時期に生命体工学研究科教務・入試係に相談してください。
- (3) 受験に必要な諸事項は、受験票の送付の際に通知します。
なお、受験票は、入学手続時まで保管してください。
- (4) 受験の際は、受験票を必ず携帯してください。
- (5) 出願手続き後は、提出書類の内容変更は認めません。
- (6) 納入した入学検定料及び提出書類は、いかなる理由があっても一切返還しません。

11. 個人情報の取扱いについて

本学が取得した個人情報については、入学者選抜で利用するほか、次のとおり利用します。

- (1) 入学者選抜で利用した成績等を、入学後の学習指導等で利用します。
- (2) 入学者選抜で利用した成績等を、授業料免除等の就学支援業務で利用します。
- (3) 入学者選抜で利用した成績等の個人情報を、個人が特定できない形で、本学における入学者選抜に関する調査研究等で利用することがあります。

※ 本学が取得した個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」第9条に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

12. 安全保障輸出管理について

九州工業大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「九州工業大学安全保障輸出管理規程」を定め、外国人留学生の受け入れに際して厳格な審査を実施しています。

規則事項に該当する場合は、希望する教育が受けられない場合や研究ができない場合がありますので、ご注意ください。

なお、詳細については、下記のホームページを参照願います。

参考 <http://www.kyutech.ac.jp/exchange/international/ampo/>

II 平成29年度10月入学

1. 募集人員

専攻名	講座名	募集人員
生命体工学	グリーンエレクトロニクス	若干名
	生体メカニクス	
	環境共生工学	
	生体適応システム	
	☆ グリーンテクノロジー	
	人間知能機械	
	人間知能創成	
	人間・脳機能	
	人間行動科学	
	☆ ヒューマンテクノロジー	

注1. ☆印：研究指導は、連携講座の研究機関において受けることがあります。

注2. 募集人員には、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜を含みます。

注3. 定員を満したした場合、以降の募集は行わない場合があります。

2. 出願資格

[一般選抜]

- (1) 修士の学位を有する者及び平成29年9月までに取得見込みの者
- (2) 専門職大学院の課程を修了し、文部科学大臣の定める学位を有する者及び平成29年9月までに取得見込みの者
- (3) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成29年9月までに授与される見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与されたもの及び平成29年9月までに授与される見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (6) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）

大学を卒業又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究機関等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めたもの

- (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同程度の学力があると認めた者で、24才に達したものと及び平成29年9月までに24才に達するもの

【注】 上記出願資格（7）又は（8）により出願しようとする者は、「9. 出願資格の審査申請について」を参照してください。

[社会人特別選抜]

企業等に在籍する研究者・技術者等で、大学等において志望の専攻と関連系統の専門教育を受けた者又は企業等で志望専攻の専門に関する経験を原則として1年以上有している者で次の各号のいずれかに該当するもの

- (1) 修士の学位を有する者及び平成29年9月までに取得見込みの者
- (2) 専門職大学院の課程を修了し、文部科学大臣の定める学位を有する者及び平成29年9月までに取得見込みの者
- (3) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成29年9月までに授与される見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与されたもの及び平成29年9月までに授与される見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (6) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）

大学を卒業又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究機関等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めたもの

- (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同程度の学力があると認めた者で、24才に達したものと及び平成29年9月までに24才に達するもの

【注】 上記出願資格（7）又は（8）により出願しようとする者は、「9. 出願資格の審査申請について」を参照してください。

[外国人留学生特別選抜]

日本の国籍を有しない者で、次の（1）から（6）のいずれかに該当し、（7）の条件を満たすもの

- (1) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成29年9月までに授与される見込みの者
- (2) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成29年9月までに授与される見込みの者
- (3) 大学を卒業又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究機関等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同程度の学力があると認めたもの
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同程度の学力があると認めた者で、24才に達したものと及び平成29年9月までに24才に達するもの

するもの

(7) 出入国管理及び難民認定法に規定する「留学」の在留資格を有する者又は大学院入学後に在留資格を「留学」に変更可能な者

【注】①日本の国籍を有しないもので、日本の修士の学位を有する者（平成29年9月取得見込の者を含む）は、特別選抜の対象としません。

②出願資格（3）又は（6）により出願する者は、「9. 出願資格の審査申請について」を参照してください。

3. 出願期間

下記の出願期間中に持参又は郵送してください。

受付時間は、午前9時から午後4時までです（ただし、土・日・祝日は受付しません）。

なお、郵送の場合は、本学所定の封筒により「速達簡易書留郵便」で期間内必着です。

願書提出先・問い合わせ先

〒808-0196 北九州市若松区ひびきの2番4号

九州工業大学大学院生命体工学研究科教務・入試係

電話 093-695-6006

	出 願 期 間
第1回入学試験	平成29年6月 8日(木)～平成29年6月15日(木)
第2回入学試験	平成29年7月31日(月)～平成29年8月 4日(金)

4. 出願手続

出願しようとする者は、次の書類を一括取り揃え、所定の期日までに生命体工学研究科教務・入試係へ提出してください。

[一般選抜]

出願書類等	注 意 事 項
入学願書 受験票，写真票	本学所定の用紙を用い、太線内の必要事項を記入してください。
検定料（30,000円）	<p>ゆうちょ銀行の窓口、あるいはコンビニ端末で納付してください。</p> <p>ゆうちょ銀行の窓口で振り込む場合は、本学所定の入学検定料払込用紙（本要項綴じ込み）により振込みの上、「検定料納入証明書（受付局日附印が押されたもの）」を必ず受け取り、願書の裏面に貼り付けてください。</p> <p>コンビニ端末で振り込む場合は、本要項綴じ込みの「コンビニエンスストアでの入学検定料支払い方法のご案内」を参照の上、支払い、取扱明細書または取扱明細書兼領収書の「収納証明書」部分を切り取り、願書の裏面に貼り付けてください。</p> <p>ただし、出願者のうち、本学大学院博士前期課程修了見込みの者で、引き続き博士後期課程に進学する者及び日本政府（文部科学省）国費外国人留学生については、入学検定料は不要です。</p>
博士前期課程又は修士課程修了（見込）証明書	<p>出身学校が作成したもの。</p> <p>ただし、本研究科博士前期課程を修了（見込み）の者及び出願資格（7）又は（8）により出願する者は提出する必要はありません。</p> <p>なお、博士前期課程1年次在学者で、在学期間を短縮して修了する見込の者は、学府長または研究科長の発行する修了見込証明書を提出してください。</p>
成績証明書	<p>出身学校が作成したもの。</p> <p>ただし、出願資格（7）又は（8）により出願する者は提出する必要はありません。</p>
研究（希望）計画書	<p>本研究科における研究（希望）計画（1000字程度）を記入してください。（様式については、別紙参照）</p> <p>*本冊子公表後、教員の異動があった場合は、本学ホームページ（http://www.kyutech.ac.jp）にて随時お知らせしますので、よく確認してから記入してください。</p>
修士論文及びその概要	修了者は、修士論文及びその論文の内容を要約した概要（2000字程度）を提出してください。（様式については、別紙参照）
公表論文等の業績リスト	可能な限り、別刷を添付してください。（様式任意）
受験票送付用封筒	本学所定の封筒に、郵便番号、住所及び氏名を明記し、362円分の切手を貼り付けてください。
在留資格証明書（査証手続きの済んだもの）の写し、又は住民票の写し	外国人志願者のみ提出してください。ただし、現在外国に居住している志願者は除きます。
あて名票	本学所定の用紙に記入してください。

[社会人特別選抜]

出願書類等	注意事項
入学願書	本学所定の用紙を用い、太線内の必要事項を記入してください。
受験票、写真票	
検定料（30,000円）	<p>ゆうちょ銀行の窓口,あるいはコンビニ端末で納付してください。</p> <p>ゆうちょ銀行の窓口で振り込む場合は、本学所定の入学検定料払込用紙（本要項綴じ込み）により振込みの上、「検定料納入証明書（受付局日附印が押されたもの）」を必ず受け取り、願書の裏面に貼り付けてください。</p> <p>コンビニ端末で振り込む場合は、本要項綴じ込みの「コンビニエンスストアでの入学検定料支払い方法のご案内」を参照の上、支払い、取扱明細書または取扱明細書兼領収書の「収納証明書」部分を切り取り、願書の裏面に貼り付けてください。</p> <p>ただし、出願者のうち、本学大学院博士前期課程修了見込みの者で、引き続き博士後期課程に進学する者及び日本政府（文部科学省）国費外国人留学生については、入学検定料は不要です。</p>
博士前期課程又は修士課程修了（見込）証明書	<p>出身学校が作成したもの。</p> <p>ただし、本研究科博士前期課程を修了（見込み）の者及び出願資格（7）又は（8）により出願する者は提出する必要はありません。</p>
成績証明書	<p>出身学校が作成したもの。</p> <p>ただし、出願資格（7）又は（8）により出願する者は提出する必要はありません。</p>
研究（希望）計画書	<p>本研究科における研究（希望）計画（1000字程度）を記入してください。（様式については、別紙参照）</p> <p>*本冊子公表後、教員の異動があった場合は、本学ホームページ（http://www.kyutech.ac.jp）にて随時お知らせしますので、よく確認してから記入してください。</p>
修士論文及びその概要	<p>修了者は、修士論文及びその論文の内容を要約した概要（2000字程度）を提出してください。（様式については、別紙参照）</p>
公表論文等の業績リスト	<p>可能な限り、別刷を添付してください。（様式任意）</p>
業績報告書	<p>修士論文のほかに研究論文を有する者のみが記入し、原則として別刷及び業績概要を添付してください。（様式任意）</p>
業務報告書	<p>いままでに携わった研究・技術職について、その内容を詳しく記入してください。（様式任意）</p>
受験票送付用封筒	<p>本学所定の封筒に、郵便番号、住所及び氏名を明記し、362円分の切手を貼り付けてください。</p>
在留資格証明書（査証手続きの済んだもの）の写し、又は住民票の写し	<p>外国人志願者のみ提出してください。ただし、現在外国に居住している志願者は除きます。</p>
あて名票	<p>本学所定の用紙に記入してください。</p>

[外国人留学生特別選抜]

出 願 書 類 等	注 意 事 項
入 学 願 書 受 験 票 , 写 真 票	本学所定の用紙を用い、太線内の必要事項を記入してください。
検定料 (30,000 円)	<p>ゆうちょ銀行の窓口,あるいはコンビニ端末で納付してください。</p> <p>ゆうちょ銀行の窓口で振り込む場合は、本学所定の入学検定料払込用紙 (本要項綴じ込み) により振込みの上、「検定料納入証明書 (受付局日附印が押されたもの)」を必ず受け取り、願書の裏面に貼り付けてください。</p> <p>コンビニ端末で振り込む場合は、本要項綴じ込みの「コンビニエンスストアでの入学検定料支払い方法のご案内」を参照の上、支払い、取扱明細書または取扱明細書兼領収書の「収納証明書」部分を切り取り、願書の裏面に貼り付けてください。</p> <p>ただし、出願者のうち日本政府 (文部科学省) 国費外国人留学生については、入学検定料は不要です。</p>
博士前期課程又は修士課程修了 (見込) 証明書	<p>出身学校が作成したもの。</p> <p>(英語又は日本語に訳したものを添付してください。)</p> <p>ただし、出願資格 (3) 又は (6) により出願する者は、提出する必要はありません。</p>
成 績 証 明 書	<p>出身学校が作成したもの。</p> <p>(英語又は日本語に訳したものを添付してください。)</p> <p>ただし、出願資格 (3) 又は (6) により出願する者は、提出する必要はありません。</p>
研究 (希望) 計画書	<p>本研究科における研究 (希望) 計画 (1000 字程度) を記入してください。(様式については、別紙参照)</p> <p>*本冊子公表後、教員の異動があった場合は、本学ホームページ (http://www.kyutech.ac.jp) にて随時お知らせしますので、よく確認してから記入してください。</p>
修士論文及びその概要	<p>修了者は、修士論文及びその論文の内容を要約した概要 (2000 字程度) を提出してください。(様式については、別紙参照)</p>
公表論文等の業績リスト	<p>可能な限り、別刷を添付してください。(様式任意)</p>
受 験 票 送 付 用 封 筒	<p>本学所定の封筒に、郵便番号、住所及び氏名を明記し、362 円分の切手を貼り付けてください。</p>
在留資格証明書 (査証手続きの済んだもの) の写し、又は住民票の写し	<p>現在外国に居住している志願者は除きます。</p>
あ て 名 票	<p>本学所定の用紙に記入してください。</p>
推 薦 書	<p>指導教員等が作成したもの。</p> <p>(英語又は日本語に訳したものを添付してください。)</p>

英語版の募集要項及び入学願書を必要とされる方は、本研究科のホームページ (<http://www.lsse.kyutech.ac.jp/>) を参照してください。

【注】国外在住者の面接試験については、e-mail (sei-nyushi@jimu.kyutech.ac.jp) 又は文書で生命体工学研究科教務・入試係にお問い合わせください。面接試験は、インターネット等を利用して実施することがあります。

5. 選抜方法

入学者の選抜は、面接試験及び書類審査の結果を総合的に判断します。

・面接試験

修士論文又はそれに代わる研究論文、博士後期課程入学後の研究計画、専門学力、成績証明書の内容等に関して口頭試問を行います。

6. 試験の会場・日時

(1) 試験会場

第1回入学試験

① 九州工業大学大学院生命体工学研究科 (TEL 093-695-6006)
(北九州市若松区ひびきの2番4号)

② KKR ホテル東京 (TEL 03-3287-2921)
(東京都千代田区大手町1-4-1 11階 松の間)

※面接試験において、一部の面接員はインターネット等を利用して面接を実施することがあります。

第2回、第3回、第4回入学試験

・九州工業大学大学院生命体工学研究科 (TEL 093-695-6006)
(北九州市若松区ひびきの2番4号)

(2) 日時

	集 合 時 間
第1回入学試験	① (若松会場) 平成29年 7月 1日 (土) 午後1時
	② (東京会場) 平成29年 6月30日 (金) 午後1時
第2回入学試験	平成29年 8月26日 (土) 午前10時

※集合時間に変更となる場合があります。受験票に記載された集合時間に従ってください。

7. 合格者の発表

	日 時
第1回入学試験	平成29年 7月 7日 (金) 午前10時
第2回入学試験	平成29年 9月 5日 (火) 午前10時

午前10時頃より、ホームページ (<http://www.kyutech.ac.jp/>) 上に合格者の受験番号を掲載します。また、合格者には発表と同時に「合格通知書」等を郵送します。電話等による合否の問い合わせには応じられません。

8. 入学時に要する経費

(1) 入学料

282,000円 (予定額)

ただし、本学大学院博士前期課程を修了見込の者で、引き続き博士後期課程に進学するものからは徴収しません。

また、外国人合格者のうち、日本政府（文部科学省）国費留学生は不要です。

- (2) 学生教育研究災害傷害保険料 2, 600円（予定額）
- (3) 後援会費 10, 000円（予定額）

9. 出願資格の審査申請について

「一般選抜」及び「社会人特別選抜」の出願資格（7）、（8）並びに「外国人留学生特別選抜」の出願資格（3）又は（6）により出願する者は、必ず事前に生命体工学研究科教務・入試係へお問い合わせのうえ、次の書類を、下記の出願資格審査申請期間に提出してください。

- (1) 出願資格審査申請書（別紙様式1）
- (2) 出願資格審査調書（別紙様式2）
- (3) 研究実績（別紙様式3）
- (4) 研究歴申告書（別紙様式4）
- (5) 出身学校の卒業（修了）証明書及び成績証明書

審査の結果は、下記の審査結果発送日に本人へ発送します。

	出 願 資 格 審 査 申 請 期 間	審 査 結 果 発 送 日
第1回入学試験	平成29年5月15日(月)～平成29年5月19日(金)	平成29年5月26日(金)
第2回入学試験	平成29年7月 3日(月)～平成29年7月 7日(金)	平成29年7月14日(金)

10. 注意事項

- (1) 本研究科の詳細については、ホームページ（<http://www.lsse.kyutech.ac.jp/>）を参照してください。
- (2) 障害等があり、受験及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、なるべく早い時期に生命体工学研究科教務・入試係に相談してください。
- (3) 受験に必要な諸事項は、受験票の送付の際に通知します。
なお、受験票は、入学手続時まで保管してください。
- (4) 受験の際は、受験票を必ず携帯してください。
- (5) 出願手続き後は、提出書類の内容変更は認めません。
- (6) 納入した入学検定料及び提出書類は、いかなる理由があっても一切返還しません。

11. 個人情報の取扱いについて

本学が取得した個人情報については、入学者選抜で利用するほか、次のとおり利用します。

- (1) 入学者選抜で利用した成績等を、入学後の学習指導等で利用します。
- (2) 入学者選抜で利用した成績等を、授業料免除等の就学支援業務で利用します。
- (3) 入学者選抜で利用した成績等の個人情報を、個人が特定できない形で、本学における入学者選抜に関する調査研究等で利用することがあります。

※ 本学が取得した個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」第9条に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

12. 安全保障輸出管理について

九州工業大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「九州工業大学安全保障輸出管理規程」を定め、外国人留学生の受け入れに際して厳格な審査を実施しています。

規則事項に該当する場合は、希望する教育が受けられない場合や研究ができない場合がありますので、ご注意ください。

なお、詳細については、下記のホームページを参照願います。

参考 <http://www.kyutech.ac.jp/exchange/international/anpo/>

Ⅲ 大学院博士後期課程アドミッション・ポリシー

九州工業大学大学院は、開学以来の理念である「技術に堪能なる士君子」の養成に基づき、高い専門性と深い学識を持ち、卓越した能力と豊かな創造性を持って、研究・開発に従事できる高度技術者を育成します。

理工学系専門分野において、最先端の知識と研究開発能力、および他分野と接する境界領域の知識の修得を目指し、これらに必要な専門分野の高度な知識を修得しているとともに、プレゼンテーション力、外国語によるコミュニケーション力、社会に果たす役割の理解、自立性、チームワーク力を身につけている皆さんの入学を期待します。

- (1) 技術者としての独創的思考および研究開発活動を行うための工学専門分野における高度な知識を修得している
- (2) 各専門分野が社会で果たす役割を理解できる
- (3) 研究開発に必要な問題解決能力を実践的な高度技能として修得している
- (4) 新技術等を提案・公表するために必要なプレゼンテーション能力を修得している
- (5) 英語によるコミュニケーション能力を身につけている
- (6) 自己の役割の認識を深める態度を有している
- (7) 未知の専門的課題に対して、その解決に向けた計画立案と作業の管理ができる
- (8) チームの一員としてチーム活動の改善を提案することができる

○生命体工学研究科 生命体工学専攻

【技術者及び研究者としての養成目標】

本研究科は、生物の持つ、省資源、省エネルギー、環境調和、人間との親和性等の優れた構造や機能を解明し、それを工学的に実現し応用することのできる技術者や研究者の養成を目指しています。さらに、社会と連携して社会のニーズに応えることにより、現代社会の諸問題を解決し、自然との持続的な調和に貢献でき、グローバルリーダーとして活躍することができると同時に、研究・技術分野の動向を常に注視し、革新的成果の実現を図ろうとする人材の養成も目指しています。

【求める人材】

(1) 深い専門知識と応用技術修得のための知識を修得しており、(2) 関連する境界分野の知識と技術を理解でき、(3) 技術の社会的・経済的波及価値を理解し、社会のニーズに応える能力のあり、(4) 論理的・独創的思考とマネジメント能力を持ち、(5) グローバルな視点で物事を判断することができる人材を求めます。

【一般選抜試験で受け入れる人材】

(1) 技術者に必要な専門分野における高度な知識を持ち、(2) 外国語によるコミュニケーション能力を修得している人材を受け入れます。

【社会人特別選抜試験で受け入れる人材】

(1) 社会人で在職のまま修学し、(2) 専門分野のより高度な技術と学識及び関連分野の幅広く系統立った知識と技術を修得し、(3) 分野を牽引する資質を持った人材を受け入れます。

【外国人留学生特別選抜試験で受け入れる人材】

(1) 専門分野のより高度な技術と学識及び関連分野の幅広く系統立った知識と技術に対する強い学習意欲とそれを学ぶための専門分野における高度な知識を持ち、(2) グローバルな視野を持って、国際社会を牽引する資質を持った人材を受け入れます。

IV 連携大学院インテリジェントカー・ロボティクスコースについて

カーエレクトロニクスコースに加えて、平成25年度よりインテリジェントカー・ロボティクスコースを開設しました。これは、北九州学術研究都市の3大学院に、戸畑キャンパスの工学府と飯塚キャンパスの情報工学府加えた3研究科・2学府が連携した連携大学院によるコースです。主に夏休み期間中の実習を主体として、**機械・制御・情報・電子の工学系の広い分野にわたるカリキュラムにより、今後ますます高度化・知能化が進む自動車・ロボット産業分野における高度専門人材の育成を目指します。**募集定員は本研究科で10名程度としており、カーエレクトロニクスコースと同様に、年度当初に書類審査・面接により選抜が行われます。通常の研究科・専攻での履修に付加されるコースですが、原則として、カーエレクトロニクスコースとの重複履修はできません。

インテリジェントカー・ロボティクスコースを履修する本研究科の学生は、以下の選択必修科目を含めて、指定された単位互換科目の中から定められた単位数を修得します。さらに、以下の総合実習のいずれかを選択してコースを履修します。修了生には修了証を発行します。

- ・ 選択必修科目
 - ロボット工学概論
 - 自動車工学
- ・ 総合実習科目
 - ミニカー／ミニロボ製作総合実習
 - 移動ロボット制御総合実習
 - @ホームサービスロボット製作総合実習
 - 認識プログラミング総合実習（飯塚キャンパス開催）
 - 小型EV車自動運転制御総合実習（早稲田大学開催）
 - 自動運転支援センシング技術総合実習（北九州市立大学開催）

詳細はホームページ（<http://jgs.kyutech.ac.jp/car-robot/>）を参考にしてください。

長期履修制度について

1. 制度趣旨

学生が職業を有していることにより、学修時間の制約を受け、標準修業年限で履修が困難な場合、申請に基づき6年を限度として、計画的な履修を認めることができます。

計画的な履修を申請し、履修許可を受けた場合、許可された年限内であれば標準修業年数（3年）分の授業料で修了することが可能です。

2. 授業料の取り扱い

長期履修が許可された場合の授業料については原則として「定められた授業料の年額 × 標準修業年限（3年）÷ 長期履修を許可された年限」により算出された金額を、各年毎に支払うことになります。

在学中に授業料の改定が行われた場合は、再計算され、改定時から新授業料が適用されます。

なお、長期履修許可期間終了後も引き続き3年間在籍は可能ですが、その場合は一般の学生と同額の授業料が徴収されます。

【参考：授業料徴収方法】

(1) 標準修業年限（3年）

	1年目	2年目	3年目	—	修了までに要する総額
年額	535,800	535,800	535,800	—	1,607,400

(2) 入学時に長期履修（6年）を申請

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	修了までに要する総額
年額	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	1,607,400

(3) 入学時に長期履修（6年）を申請していた者が、1年次終了時に3年短縮した場合

	1年目	2年目	3年目	—	修了までに要する総額
年額	267,900	535,800	535,800	—	1,607,400
差額	267,900	←変更許可時に徴収。			

(注)上記の金額は平成28年度額につき、在学中を含め、今後変更される場合があります。

3. 履修期間について

長期履修期間は最大6年を限度として、下記のとおり「年」単位で取り扱います。

(1) 入学当初からの申請 : 標準修業年限3年のところ、4, 5, 6年での申請可

(2) 1又は2年次終了時からの申請 : 長期履修前の期間を含め6年まで申請可

4. 長期履修期間の変更等について

相応の理由があると認められる場合、長期履修期間の変更（延長・短縮）ができ、下記のとおり取り扱われます。ただし、履修計画最終年次での申請・変更は出来ません。

短縮： 9月修了希望の場合は前年度の2月末日までに、3月修了希望の場合は8月末日までに、申請し、許可を受け、差額の授業料を納めた上で、翌年次から短縮することが可能です。ただし、標準修業年限未満での短縮修了は認められません。

延長： 延長を希望する年度の前年度の2月末日（10月入学者にあつては8月末日）までに、申請し、許可を受けることで、長期履修前の期間を含め最大6年までの延長が可能です。授業料は標準修業年数（3年）分の授業料となるよう、再計算されます。

5. 申請手続き

授業までの見直し等含め、履修計画等指導教員と相談の上「長期履修申請書」、「在職証明書」を生命体工学研究科教務・入試係へ提出してください。「長期履修申請書」等の様式については、合格後に配付します。

不明な点は、生命体工学研究科教務・入試係までお問い合わせください。

付表 主要教育研究分野別一覧

1. 生命体工学専攻

講座名	主要教育研究分野	主要教育研究内容	担当教員
グリーンエレクトロニクス	パワーエレクトロニクス	パワーエレクトロニクス技術を応用し、人や環境に優しく、省エネルギーを実現する電力変換装置の開発やその応用に関する研究を行っています。具体的には電力用静止機器の交流-交流直接電力変換装置やモータやアクチュエータの高性能高効率駆動制御技術についての研究をしています。	花本 剛士
	塗布で作製できるプリンタブルエレクトロニクス、フレキシブルエレクトロニクスデバイス・材料	生体の高能率なエネルギー変換機能, 高い感覚機能を分子レベルで学びそのメカニズムを応用した新エネルギー変換素子, 新センサーなどの有機エレクトロニクスデバイスを開発します。具体的には光合成型太陽電池, エタノール, グルコースを燃料とする燃料電池, 電界効果型有機トランジスタ (微小スイッチ, センサー) を研究します。新ナノ材料, 新有機半導体材料を使ったナノテクノロジーを駆使してデバイスを構築し, 新材料からデバイス評価までを広くカバーした研究を行います。低環境負荷エネルギー変換に関する研究を通して環境問題に貢献します。	早瀬 修二
	次世代パワー半導体デバイス	パワー半導体を中心とした次世代パワーエレクトロニクス技術の研究を、省エネルギーの推進、電力の高度利用技術、自然エネルギーの活用等による低炭素社会の実現に貢献するエレクトロニクス (グリーンエレクトロニクス) の観点から推進し、博士レベルの人材育成、知的財産権の創出、独自のオープン・ラボ構想による研究機関や企業との研究連携など、教育及び研究活動を通じた産業の振興に寄与していきます。(次世代パワーエレクトロニクス研究センター、ホームページ： http://power.kyutech.ac.jp/)	大村 一郎
	ナノ構造・エネルギー変換システム	生体の高能率なエネルギー変換機能, を学び、そのメカニズムを応用した新エネルギー変換素子を開発します。また光電変換デバイスを使うナノ材料の開発も行っています。具体的にはナノ半導体及び機能性触媒などのナノ材料の合成を行い、色素増感太陽電池やペロブスカイト太陽電池などのデバイスを構築します。さらにデバイスの性能を評価し、最適化を行います。これらの研究を通して、新エネルギーや環境に興味を持つ学生を育成します。また、国際化プログラムを推進するために、アジアの留学生を受け入れます、それから日本の学生を海外の大学に送り出します。留学生、外国研究者との交流を通して国際舞台で活躍できるエンジニアの育成に努めます。	馬 廷麗
	電気化学デバイス・材料工学	光合成の仕組みを使って太陽光を電気に変える有機系太陽電池 (色素増感太陽電池、有機薄膜太陽電池) の研究を行っています。目的を達成するためには太陽光を吸収するための新色素の合成 (近赤外、赤外吸収色素)、電荷を運ぶための導電性高分子 (高いホール輸送能力を有する有機半導体ポリマ) の開発が必須です。我々は、上記光機能性分子を分子軌道計算で設計、合成し、太陽電池としての有用性を評価しています。計算化学-合成-基礎物性評価-太陽電池作製-太陽電池性能評価までの広い領域をカバーし、高効率有機太陽電池作製のための指針を提案し、環境を通じて社会に貢献することを研究の目的としています。	パソティー シヤマ ステイル
	ソフトマターデバイス	柔軟性は生体の有する大きな機能的特長です。これを生かしたデバイス開発は、生体にフィットするやさしい機能デバイスや、製造コストやエネルギーコストなど多くの点で環境にもやさしいエコフィットなグリーンエレクトロニクスデバイスを開発することが出来ます。当研究室では、導電性高分子を中心とした機能性有機材料をベースに、多様なソフトデバイスやウェットデバイスの開発などを行い、その成果を英語論文として発信していくことを経験してもらいます。柔軟素子が実社会に提供する効果や意義を見出し、その結果を意識した研究開発や国際感覚を学んでいきます。	※ 高嶋 授
	パワーエレクトロニクス、スイッチング電源、電子回路、制御工学	低炭素社会実現に向け、電力化率 (最終エネルギーにおける電力の割合) は2050年には50%に達すると予想されており、将来、ほとんどのエネルギーを電力で賄う、高度電力化社会が到来します。高度電力化社会では電気エネルギーの有効利用が重要となり、そのキー技術となるのが電力変換器などのパワーエレクトロニクス技術です。電力変換器の中でも特にスイッチング電源についての研究を行っています。近年、スイッチング電源は家電製品、各種ポータブル機器など幅広く利用されています。スイッチング電源は、人に例えると心臓が全身に血液を送り出すのと同様に電子機器に電力を供給する云わば電子機器の心臓部にあたる極めて重要な役割を担っています。スイッチング電源の小型・高効率化および高性能化について、その回路技術・制御技術の研究を行っています。	※ 安部 征哉

※の教員を志望する場合は、事前に教務・入試係へ相談してください。

生 体 メ カ ニ ク ス	生 体 熱 工 学	<p>機械工学における熱工学や伝熱工学を基礎として、生体工学、医療、環境などの課題に取り組む教育・研究を行います（生体熱工学、バイオ伝熱工学、バイオトランスポート）。生体や医療、環境などに関連して、熱移動や物質移動は、重要な役割を果たし、その移動現象の定量化、計測、数学的モデル化、数値予測、設計・最適化は、基礎だけでなく、技術応用の点からも重要です。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)凍結手術（ガン凍結療法）における伝熱現象の解明と応用 2)新しい凍結保存法の開発と伝熱研究、 3)種々の熱的環境・ストレス（凍結、低温、高温、乾燥など）に対する細胞応答特性の解明、 4) 3)において、細胞の応答・損傷特性を数学的に記述するための数学モデルの構築、 5)生体熱工学における熱物性の測定 6)関連デバイスの研究開発など。 	石黒 博
	生 体 流 体 工 学	<p>先端医療をより高度化するため、機械工学、特に流体工学やそのほかの応用力学の知識を用い、(1)人工臓器開発のための血液流れの溶血・血栓現象の数値的・実験的解明、(2)衝撃波を利用したドラッグ・デリバリー・システムの開発、(3)衝撃波を利用した環境バイオプロセスの開発、(4)再生医療のための衝撃波細胞増殖制御、血液内の白血球の走化性の物理的解明とマイクロマシン動力源としての応用、(5)循環器系流れのフラクタルを利用した流れの数値シミュレーションとその高速計算のアルゴリズムの開発、(6)気泡や超音波の医療応用、(7)衝撃波による細胞変形挙動解明、さらには(8)気泡を用いた上下水浄化システム向上、(9)高齢者の転倒による脳損傷のシミュレーションによる解析などの研究を行っています。</p>	玉川 雅章
	生 体 力 学	<p>材料力学や機械設計、計測、計算機シミュレーションを活用して、医療支援（医工・歯工連携）や製品設計指針に関わる研究を行います。すなわち、動脈硬化病変部などの血管の数値解析や実験を行い、病変部などに対する力学的知見を提供します。折れた歯の修復部の有限要素解析を行い、治療技術や材料利用技術を検討します。また、軟組織・マットレスの変形特性の測定や骨突起部での有限要素解析を実施して、褥瘡の合理的な予防を支援します。</p>	山田 宏
	知 能 機 械	<p>近年、ロボット技術が医療・福祉分野に適用され、ロボットが人と接する機会が増えています。その場合、従来の産業用ロボットとは異なり、人とロボットが接したときのお互いの損傷が少ないよう柔軟な素材を使ってセンサやアクチュエータを構成することが必要です。そのような背景から、「柔軟なセンサ・アクチュエータの医療・福祉・産業への応用」を目指し、(1)低侵襲治療機器にも用いることのできる柔軟な触覚センサ、(2)血管内治療用シミュレーションシステム、(3)形状記憶材料や人工筋肉のロボットへの応用などの研究を行っています。</p>	高嶋 一登
	バ イ オ マ イ ク ロ デ バ イ ス	<p>半導体加工などのマイクロ・ナノ加工技術を利用して実現される微小な構造と機能は、マイクロマシンやMEMS（Micro Electro Mechanical Systems）と呼ばれます。このMEMS技術とバイオ技術を融合することで、医療や創薬に貢献する革新的な微小デバイスを構築します。例えば、シリコン基板やガラス基板に微小な流路や電極などを形成し、その上で血液や細胞、タンパク質、DNAなどを扱うことで、血液一滴で診断が可能な血液検査デバイス、培養細胞の機能解析を行うマイクロデバイス、DNAや膜タンパク質を利用した生体分子計測用センサ、デバイス表面の濡れ性を制御して微量液体を操作する技術などを研究開発します。</p>	安田 隆
	バ イ オ メ デ ィ カ ル ロ ボ テ ィ ク ス	<p>本研究室では高精度かつ高速なロボット技術を応用することで生体のような柔らかいものの特性を計測する研究を行っています。これまで、人間のような大きなサイズから細胞のような小さいサイズのものまでその特性（硬さなど）を調べ、生体機能との関連性を明らかにしてきました。また、計測の際に必要なロボットやセンサについても独自の先端技術を開発しています。</p> <p>さらに、生体や細胞の特性を詳細に調べることで、これまでに知られていない新しい知見を得ることが期待できます。このような成果を基に革新的なバイオ・医療デバイスを開発するとともに、次世代のロボット開発に不可欠な材料、アクチュエータ、センサ、ソフトウェアなどの要素技術の開発を行っています。</p>	※ 川原 知洋

※の教員を志望する場合は、事前に教務・入試係へ相談してください。

	生 体 機 能 材 料	<p>病気やけがにより損傷を受けた生体組織の機能を代替する生体材料の合成と評価を行っています。主として骨や歯、軟骨、神経等の修復に焦点を合わせ、材料の持つ特性を引き出しながら、優れた生体親和性を発揮する新素材を設計します。例えば、生体内で異物反応なく骨と自然に結合できる人工骨を、セラミックス、金属、高分子、あるいは有機-無機ナノハイブリッド等から創成し、その微細構造や化学的特性、生物学的親和性を評価します。さらに、生物が小さなエネルギー消費で骨や貝殻を作り出すプロセスに学び、常温常圧の下で高機能セラミックスを合成し、医療や環境浄化等に応用する試みも進めています。最近では、上記に加えてがん治療を支援するセラミックス微粒子の研究も展開しています。</p>	宮崎 敏樹
	環 境 材 料 創 成 工 学	<p>材料の機能の多くは、その起源を材料に含まれる元素の性質に依存しています。その元素の役割を理解し、さらなる高機能化を実現することが可能になれば、二酸化炭素削減等の環境問題に貢献することができます。物性物理学の見地から材料の高機能化を推進し、環境に優しい材料の開発を目指しています。</p>	※ 飯久保 智
環 境 共 生 工 学	生 物 リ サ イ ク ル 工 学	<p>われわれの生体内では摂取した食物から効率的にエネルギーと生体構成成分を取り出し、その後、巧みなシステムによって単純な老廃物として体外へ排出しています。これらは再び他生物に利用され環境における物質循環を形成しています。ここで注目すべきは生体内で廃棄物の処理に想像以上にエネルギーが消費されていることです。翻って、現在の世界ではゼロエミッション、リサイクルと標榜されることはあっても、エネルギー消費を含む合理的なリサイクルシステムについて議論されることは少ないです。ここでは、生体をモデルに社会における合理的なリサイクルシステムについて研究します。</p>	白井 義人
	界 面 機 能 工 学 分 野	<p>界面機能工学分野では、分子の情報やエネルギーを「取り出す」機能をもった界面の創成を行う様々な研究を推進しています。その研究成果は、エネルギー生産反応、生体機能の計測(バイオセンサ)、低エネルギー化学反応、有害物質分解などの応用技術に直結します。これらの技術は、新エネルギー(水素エネルギーなど)、温室効果ガスの資源化、低エネルギー化学プロセス、健康管理、化学工業、安全衛生、などの分野で応用(産業化)されます。そのような課題解決型の研究を、春山研究室では基礎研究から技術開発・製品化(企業との共同)までを並行推進する「ソリューション研究」を研究フィロソフィーとしています。春山研究室における基礎研究成果の製品化事例もあります。このような考え方で研究に取り組むことにより、新規技術の創製に資するのはもちろんですが、教育現場としての研究室活動としては、問題を見出し、問題を解決することのできる技術者・研究者の育成に資するところが大きいと考えています。春山研究室(界面機能工学分野)では、様々な研究を展開し、また成果を獲得しております。その詳細につきましては、研究内容の一部を本ホームページ上でご紹介しています。</p>	春山 哲也
	生 物 機 能 構 造	<p>タンパク質分解酵素検出試薬、ペプチドナノ構造体等の設計、合成およびその解析を行っています。生体分子の機能発現にはその立体構造が重要です。体外診断薬開発に向けたタンパク質分解酵素活性検出用蛍光性ペプチド、機能性ナノ構造体を形成するコラーゲンペプチドなどを有機合成し、その機能を解析することによって、生体関連分子の機能と構造の関わりを解明しています。</p>	加藤 珠樹
	生 物 物 質 循 環	<p>自然資本と持続可能性に関する教育研究を行います</p>	※ 脇坂 港
	生 物 機 能 分 子	<p>タンパク質や核酸類などの生体分子や独自に設計した生体機能分子を応用する工学研究を推進しています。具体的には、生体分子とナノ粒子の融合による新規機能性ナノ材料の構築を行い、食品・医療分野へ応用可能なセンサの研究開発を推進しております。また、植物・昆虫由来の機能性タンパク質をベースに独自に設計した生体分子を利用して、遺伝子組み換えタンパク質の発現を高効率化する応用研究を行っています。</p>	※ 池野 慎也

※の教員を志望する場合は、事前に教務・入試係へ相談してください。

	環境適応機能	微生物は精巧な微生物機能により、様々な過酷な環境で生き延びる術、有用な物質を造りあげる術などを兼ね備えています。そのような微生物が持つ有用な機能を工学的に応用するために、バイオフィーム形成、微生物間コミュニケーション、環境浄化などに関わる機構を遺伝子工学的かつ生物化学的な視点で解明し、その微生物機能に基づいた新規環境技術の構築を目指しております。	前田 憲成
生体適応システム	生体分子デザイン	生物のもつ機能を解明するためあるいは制御することを目的として、分子認識機構に基づいて設計された様々な人工的な有機分子あるいは生体分子が開発されていることから、これらの分子設計や合成手法について研究しています。生体分子の設計については、生体分子構造データベースから得られる情報を再構築など、バイオインフォマティクスを駆使した分子デザインを目指しています。また、合成手法については、グリーンケミストリーの考えにもとづき、酵素触媒やマイクロ波エネルギーを利用したプロセス化学について研究しています。	大内 将吉
	光機能ナノ材料	光励起により様々な機能を発現する無機の半導体材料の開発とその反応機構の解明を目的に研究を行います。具体的には、環境浄化やエネルギー変換を引き起こすことができる光触媒やこれらを応用した光触媒電極、また、太陽電池などの光電変換材料などです。これらの反応機構を理解するために分光法をはじめとする様々な手法によって材料評価を行います。最終的には、地球環境に調和できるようなクリーンエネルギー材料を創成し社会に貢献します。	※ 村上 直也
グリーンテクノロジー	マイクロ化学	ロボティクス・グリーンテクノロジーの理解を深めながら、マイクロ・ナノスケールで出現する特異な現象を適用したメカトロニクスの主要パーツであるアクチュエータ材料の設計、製作技術に関する教育と研究を実施します。 ・真空用ロボットに必要な真空軸受用固体潤滑膜の研究 ・アクチュエータの高性能化に必要な薄膜形成技術の研究 ・メカトロニクス・ロボティクス製品の環境性能向上を考慮した磁性材料の研究	※ 佐々木 巖
	メカトロニクス, 制御理論, 制御技術応用	メカトロニクスシステムのシステム設計および実現につき理論的および実験的に教育と研究を行ないます。キーワードは精密化(ナノメートル)と高速応答化です。さらに、メカトロニクスシステムが人間と協調する環境を想定し、そのためのシステム設計をハードおよびソフトの両面から教育および研究します。	※ 本田 英己
	エネルギー	エネルギー利用の電力化が加速しており、一次エネルギーからの電力発生・電力利用の両面でエネルギーの効率向上・有効利用が大きな課題となっています。 そこで、一次エネルギーの電力への変換、電力・水素など二次エネルギー間の変換・貯蔵・輸送に用いる固体酸化物形燃料電池、水素製造用高温水蒸気電解セル等の電気化学デバイス技術の研究を行い各過程での省エネルギー・エネルギー有効利用を目指します。	嘉藤 徹

※の教員を志望する場合は、事前に教務・入試係へ相談してください。

講座名	主要教育研究分野	主要教育研究内容	担当教員
人間 知能 機械	脳型集積システム	脳型人工知能のための情報処理モデルを、ハードウェア化を考慮して考案し、それを効率よく実行する電子デバイス・集積回路・システム・ソフトウェアを設計・開発しています。本分野における研究の二本柱は、ロボットの視覚・脳型処理システムの開発と、スパイクパルスを用いるニューラルネットワークや振動子ネットワークの集積デバイス・回路化、システム化およびそれを実現するナノデバイスに関する研究です。両者は相互に関連して進めています。この分野に所属した学生は、研究の過程で、基礎学問としての神経科学やナノ電子デバイスの知識を得られるだけでなく、産業界で要望されている実践的な最新の画像処理技術、集積回路設計・デバイス作製技術・システム化技術等を習得することができます。	森江 隆
	フィールドロボティクス	社会で活躍できるロボットの開発を目標とします。ロボカップや水中ロボット競技会への参加を通じて、環境の変化に対して柔軟に対応できるロボット、ロバストなロボットを開発し、これらの技術を水中ロボットや医療介護ロボット、産業用ロボットへ応用します。	石井 和男
	知能創発ナノシステム	生体の機能に学んだ新しい情報処理に用いる為の基本的な知能創発ナノデバイスの開発およびそれらを組み上げた電気回路の新規物性発現を目指しています。特に脳型信号発生・伝達、視覚・画像認識のためのナノデバイスに注目しています。具体的には、スパイクパルスを用いるニューラルネットワークや振動子ネットワークを実現するナノデバイスを開発し、さらにそれらを回路化することによりこれまでに類を見ない性質の発現を目指した材料工学から脳型応用にまたがる広い分野を網羅する基礎研究です。この分野に所属した学生は、研究の過程で、基礎学問としてのメソスコピック物理学、有機・無機電気物性の知識を得るとともに、産業界で要望されている実践的な最新のナノ電気デバイス作製技術・応用法やその回路化技術、脳型応用などを習得することができます。	田中 啓文
	人間機能代行システム	疾病や加齢によって生じる身体機能障害は、ヒトの感覚・運動機能および脳の働きが不十分なために生じます。ここでは、ヒトの感覚・運動機能の特性を心理物理学的実験方法により解析し、その特性に基づき、ヒューマンインターフェースの観点から障害者・高齢者の不十分な身体機能を代行・支援する人間親和性の高い支援装置や機能代行方法の研究開発をおこないます。	和田 親宗
	人間機能支援システム	計算論的神経科学とロボット開発を行います。(1)腕の到達運動など、人間の運動を計測、解析し、(2)人間の腕の到達運動を説明できるような数学的なモデルを作成し、計算機シミュレーションによって検証します。これらの成果を踏まえた工学的な応用として(3)人間のけん玉やテニスのサーブなどの運動をカメラで観察して人間の動きをうまく真似できたり、人間のように柔軟な動作のできる運動学習ロボットの開発などを行います。	宮本 弘之
	実用化ロボティクス	In order to develop practical robotic system to help or take care of us , robots and their environment must have two main properties: autonomy and self-sufficiency. To study and realize these type of robots, we mainly concentrate on intelligent mechatronic design methodology which includes study on low-power and efficient actuator and sensor system, intelligent motion control system, safe and accurate navigation, simultaneous localization and mapping, actuator control and power supply management, learning and task management, and safety.	※ ☆アミル ナシライ

※の教員を志望する場合は、事前に教務・入試係へ相談してください。

☆は平成29年度及び平成30年度は志望できません。

	脳型計算機システム	<p>“人間と自然なインタフェースで意思のやり取りを行い、人間のように自ら考え行動できるロボットの実現”を遠大な目的として掲げ、人間の持つ知能を工学的に実現する“脳型計算機システム”の研究開発を行います。再構成可能半導体FPGA, Many Core CPU, インターネットを複合した“ハードウェア・ソフトウェア・ネットワーク複合体”により、高い演算性能と電力効率を実現する専用性と、多様な問題へ対応できる汎用性を両立するシステムを確立します。これに、生物の脳が持つ学習機能を融合することで、自ら考え、経験を積み、学習・成長する脳型計算機を模索します。さらに、人間の生活空間で人間のパートナーとして働くサービスロボットや自動運転車、人間に優しいインタフェースを提供する知的動画像処理等へ多角的応用を行います。本分野へ所属した学生は、研究活動を通し、現在の高度情報化社会を支えるハード、ソフト、ネットワークに関する実践的な技術とそのシステム化に関するノウハウを習得できると共に、脳機能という21世紀最大のフロンティアを工学的な立場から切り開き応用する研究テーマへと携わることが出来ます。</p>	田向 権
人間知能創成	脳型高次知能システム	<p>知的情報処理を可能にするアルゴリズムの開発と学習理論の研究をしています。特に、学習結果の集積からさらに高次レベルの学習を行う知能アルゴリズムの研究に取り組んでいます。たとえば普遍的な法則性を見つけたり、個性や視点を推定したり、さらには他者理解・自己理解が創発するような知能の実現にチャレンジしています。また開発したアルゴリズムをデータマイニングやパターン認識などに応用するとともに、人間の知能の解明につなげる研究にもつなげていきます。</p>	古川 徹生
	人間・社会的知能システム	<p>ヒトやシャカイを学習・適応し続けるシステムとして理解すること、またその理解に基づいた支援システムを構成し社会に還元することを目指します。研究テーマに応じて、知能ロボティクス、機械学習、生体信号処理、神経科学などから必要な知識を学ぶことができます。近年では、双腕ロボットを用いた介助システムの研究や、強化学習エージェントによるヒトの運動学習支援、また筋電位信号からの五指運動意図推定などの研究が世界的に高く評価されています。ソーシャルイノベーションを目指したシステム開発と社会実装が行える人材の育成も行います。</p>	柴田 智広
	知能推論システム	<p>ヒトは、複雑な環境の中で生活し、また周囲のヒトと適切なコミュニケーションを行うことで社会生活を営んでいます。このようなヒトが行う知的な情報処理の実現を目指し、データ解析という観点から取り組んでいます。データを解析することでヒトの意思決定の仕組みを解明することができ、そのモデル化や意思決定の支援を目的として研究・開発を行っています。</p>	堀尾 恵一
	脳型知能創発システム	<p>非線形力学の方法論を基盤に、脳、身体、社会の三つの発想から脳(知能)や身体(制御)の計算原理を追求し、それを再現するロボットや人の支援装置の開発など、理論と実装・実験を対にした理工学的研究を行います。</p>	我妻 広明
	感性情報処理	<p>人間の主観的な特性に着目し、ヒューマン・コンピュータ・インタラクション研究のひとつとして感性情報処理に関する研究開発を行います。印象や嗜好といった人間の感性と結びついていると考えられる要因を探り、数学的・工学的にモデル化し、情報システムのデザインに応用します。パターン理解やソフトコンピューティングなどの基礎技術だけでなく、認知科学や心理学の知見についても学び、人間の特性と情報処理技術を融合させることで、よりヒューマンフレンドリな情報システムを開発することを目指します。</p>	※ 吉田 香
	人間親和型システム	<p>日常生活の中で活動するロボットには、人間と調和するように行動することが求められます。人間親和性を持ったロボットシステムの実現を目指し、ニューラルネットワークなど知的情報処理技術を応用して、目的・状況に応じて適切な行動を発現できる運動制御システムの開発について教育研究を行っています。開発した運動制御システムの検証は、実際のロボットやシミュレータを通じて行っています。</p>	※ 猪平 栄一

※の教員を志望する場合は、事前に教務・入試係へ相談してください。

人間・脳機能	脳型動的情報システム	<p>下等生物の神経系から高等生物の脳内まで観察される神経リズムは、生物の能動的情報処理機構と関連があります。このような脳内神経リズムを用いた能動的情報処理機構を、実際の動物の脳を用いた生理学実験とコンピュータを用いたシミュレーション実験、さらにヒトの脳波実験によって解明し、教育と研究を行なっています。また脳信号によりコンピュータを制御する研究も行っています。</p>	夏目 季代久
	Team Management	<p>1. Team Communication 2. Occupational Health Marketing 3. Team learning environment with Key Words Meeting®</p>	JAHNG, Doosub
	数理脳情報学	<p>脳における情報符号化に関する研究や教育を行っています。具体的な対象として、海馬や味覚の情報処理に関する研究や魚の行動について研究をおこなっています。</p>	立野 勝巳
	脳型分子感覚情報処理	<p>外界環境の検出およびその情報伝達には、受容細胞における多様な分子動態が受容機能を発現しています。外界の化学物質検出、情報処理機構を生理学的に研究し、これらの機能発現に関与する分子を遺伝子レベルで解明しています。受容細胞の特徴を利用した新しい信号処理システムの開発を目指しています。</p>	大坪 義孝
人間行動科学	行動認知心理学	<p>運動行動など人間の社会的欲求に基づく様々な行動について認知機能及び情動と行動の相互関係を共分散構造分析などの手法により明らかにし、人間の行動を説明するモデルを構築するための教育研究を行います。</p>	磯貝 浩久
	視覚性運動制御	<p>急速性眼球運動や手を伸ばしてボタンを押す運動に関わる脳機能の研究は、空間情報を視覚的にとらえ身体的空間情報に変換して運動を行う視覚性運動制御の研究対象として現在よく研究され、高次脳機能の中でも理解が進みつつある分野の一つです。ここでは、このような脳の視覚性運動制御機構を中心に教育と研究を行います。</p>	※ 加藤 誠
	生理心理学・脳神経科学	<p>fMRIやMEG等、近年の計測技術の進歩により、ヒトの中枢神経系の活動を非侵襲的に高い空間分解能・時間分解能で計測する事が可能となりました。これらの計測装置を用いて研究を行うために必須の生理学的・心理学的な基礎知識の教育を行い、主にfMRIと脳波を用いた睡眠中の自発性脳活動の解析及び眼球運動に伴う脳活動について実験・研究を行います。</p>	宮内 哲
	脳ダイナミクス	<p>脳ダイナミクスは脳の機能的な情報処理において重要な役割を果たしていると考えられます。脳ダイナミクスの計測と解析、脳情報処理の解読、さらには脳ダイナミクスの制御について、脳波、脳刺激、ブレインマシンインターフェース、統計的機械学習手法を用いて基礎、応用研究、教育を行っています。</p>	北城 圭一

※の教員を志望する場合は、事前に教務・入試係へ相談してください。

ヒューマンテクノロジー	自己組織システム	<p>私たちの脳と計算機を比較すると、脳で普通にできることでも計算機で実現するのは困難なことが数多くあることがわかります。その典型的な例は新しい状況において適切な答えをその場で出すことで、経験で獲得された情報を用いた瞬時的な判断や創造的な行為の生成が可能になっています。こうした脳の働きを支えるのは、膨大な神経細胞が自律的かつ協力的に活動するしくみ、しかもその場その場の環境の情報を取り込んでそれに応じたプログラムを組み替えるしくみによって可能になります。このような自律性、創造性の物質的な基盤として自然界でみられる時間空間パターンの自己組織現象があります。自己組織現象ではシステムに生じた静止状態を不安定化する力と要素の協力性によって、要素集団として協力的なダイナミクスが自発的に生まれる現象です。このような自己組織現象を生物システムで探ると、システムと環境との界面のところに自発的な協力的ダイナミクスが生まれることで、システムの適応的な行動を可能にしている例がいくつかみつかります。さらに脳を探索とそこにある自発的協力的ダイナミクスとして見えてくるのが神経活動集団のリズムの同期現象です。自己組織現象の原理の基礎、生物システム自己組織現象の代表例、さらに脳の働きの歴史と最新の実験、理論研究を学び創造的な脳型システムとしての新たな知能の設計の展望について考えます。</p>	山口 陽子
	知識情報処理	<p>知的システムにおけるアルゴリズム開発の基礎的方法論および応用事例研究を行います。本研究では、人類や自然界などの知的存在に学ぶことで、問題解決やコミュニケーションに役立てること、すなわち価値創造に結びつけることを重要視しています。具体的には、ファジィ論理やソフトコンピューティングおよび統計解析などの基礎的内容の理解と同時に、健康や環境分野を対象として応用研究を行います。特にセンサデータ解析に基づく、指標・基準・因果関係の開発と活用方法の構築を目指しています。また、人間-機械協調系における社会的知能について検討を行います。さらに、企業における研究開発のあり方について紹介、議論します。</p>	※ 中嶋 宏
	画像センシング	<p>人間の視覚機能を工学的に実現するための基礎的方法論および応用事例研究をおこないます。人間は外界の光が様々な物体に反射して目に飛び込んできた結果を利用して瞬時に意味のある情報に変換しています。これら一連の機能をカメラや照明装置、計算機を駆使し、人間の視覚を超える機能として実現することを目指しています。</p>	※ 諏訪 正樹
	生物模倣型ロボット	<p>生物の機能・能力・構造からヒントを得て工学に応用するバイオミメティクスに注目し、ロボットの新しい移動形態・制御システム・情報処理システムを開発することを目指します。</p>	※ 松尾 貴之

※の教員を志望する場合は、事前に教務・入試係へ相談してください。

コンビニエンスストアでの入学検定料支払い方法のご案内

下記のコンビニ端末にてお支払いください

1 お申込み

セブン-イレブン
マルチコピー機

<http://www.sej.co.jp>

最寄りの「セブン-イレブン」にある「マルチコピー機」へ。

TOP画面の「**学び・教育**」よりお申込みください。



学び・教育
↓
入学検定料等支払

LAWSON Loppi **MINISTOP Loppi**

<http://www.lawson.co.jp> <http://www.ministop.co.jp>

最寄りの「ローソン」「ミニストップ」にある「Loppi」へ。

TOP画面の「**各種サービスメニュー**」よりお申込みください。




「各種申込(学び)」を含むボタン
↓
学び・教育・各種検定試験
↓
大学・短大・専門、小・中・高校等お支払い

あなたも、コンビニに、
FamilyMart Famiポート

<http://www.family.co.jp>

最寄りの「ファミリーマート」にある「Famiポート」へ。

TOP画面の「**申込・請求(学び・教育)**」よりお申込みください。



申込・請求
↓
学び・教育
↓
各種(入学検定料等)お支払いサービス

Kstation ケイステーション

<http://www.circleksunkus.jp>

最寄りの「サークルK・サンクス」にある「Kステーション」へ。

TOP画面の「**学び・申込**」よりお申込みください。



「学び・申込」
↓
各種(入学検定料等)のお支払い

お申込みの大学 をタッチし、申込情報を入力して「**払込票/申込券/受付票**」を発券ください。

*画面ボタンのデザインなどは予告なく変更となる場合があります。

2 お支払い

コンビニのレジでお支払いください。

- 端末より「払込票」(マルチコピー機)または「申込券」(Loppi、Famiポート)または「受付票」(Kステーション)が出力されますので、**30分以内にレジにてお支払いください。**
- お支払い後は「取扱明細書」(マルチコピー機、Kステーション)または「取扱明細書兼領収書」(Loppi、Famiポート)を受け取ってください。

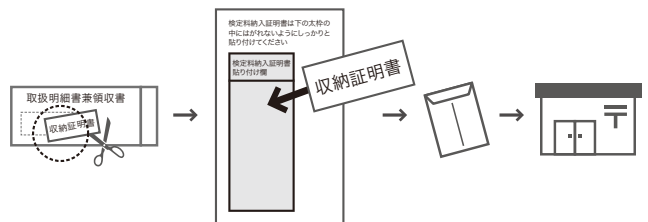
*お支払い済みの入学検定料はコンビニでは返金できません。
*お支払期限内に入学検定料のお支払いがない場合は、入力された情報はキャンセルとなります。
*すべての支払方法に対して入学検定料の他に、払込手数料が別途かかります。

払込手数料	入学検定料が5万円未満	432円
-------	-------------	------

3 出願

「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の「**収納証明書**」部分を切り取り、願書の「**検定料納入証明書等貼り付け欄**」に貼り付け、郵送してください。

貼付する場合、「感熱・感圧紙などを変色させる場合があります」と記載のある糊は使用しないでください。「収納証明書」が黒く変色する恐れがあります。



【入試に関するお問合わせ先】九州工業大学 大学院工学府(大学院係) TEL 093-884-3057 / 大学院情報工学府(大学院係) TEL 0948-29-7520
大学院生命体工学研究科(教務・入試係) TEL 093-695-6006
(受付時間)月曜~金曜 9:00~17:00 *土日・祝日を除く

【操作などのお問合わせ先】学び・教育サポートセンター <http://e-apply.jp/> ※コンビニ店頭ではお応えできません。

平成30年度4月入学 九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程)

入学願書 (一般選抜)

第1回入学試験会場
若松(7/1) ・ 東京(6/30)
(○印で選択)

ふりがな					受験番号	* B		
氏名								
ローマ字表記								
性別	男・女	生年月日	昭和 平成	年	月	日生	本籍地	都道府県
現住所	〒 - TEL () メールアドレス							
受験のための連絡先	〒 - TEL () メールアドレス							
志望指導教員名	[注] 5参照							

学歴	年 月 国, 公, 私立	高等学校・高等専門学校卒業
	年 月 国, 公, 私立	大学 学部 学科入学
	年 月 国, 公, 私立	同上卒業・修了
	年 月 国, 公, 私立	大学大学院 研究科専攻入学 修士課程 ・ 博士前期課程
	年 月	同上修了・修了見込
	◆	年 月
職歴	年 月	
	年 月	
	年 月	

- [注]
- 願書は、インク又はボールペンを使用し、楷書で明記してください。
 - *印の箇所は、記入しないでください。
 - 学歴は、高等学校等から記入してください。
 - ◆印の箇所は、研究生等の経歴がある場合に記入してください。
 - 志望指導教員名は、付表「主要教育研究分野別一覧」から選択してください。
※印の教員を志望する場合は、事前に教務・入試係へ相談してください。

検定料納入証明書、あるいは、収納証明書は
下の太枠の中にはがれないようにしっかりと
貼り付けてください

**検定料納入証明書
または、収納証明書
貼り付け欄**

ゆうちょ銀行窓口、
あるいは、コンビニ
端末で納付してくだ
さい。

検定料
30,000円

検定料納入証明書に
受付局日附印が押印
されていない場合は
受理できないので特
に注意してくださ
い。

平成30年度4月入学
九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程) 一般選抜

受験票 (若松・東京)

受験番号	*B
氏名	
生年月日	
志望専攻	専攻
集合時間	10時・13時・時

写 真

- ◎半身脱帽正面向きで出願前3か月以内に撮影のもの
- ◎本欄と同形のもの(4.5cm×4.5cm)
- ◎写真裏面に氏名及び志望専攻を記入の上全面のりづけしてください

(注)

1. この受験票は、試験当日係員に提示してください。
2. 受験者は、掲示板及び係員の指示に従ってください。
3. 入学手続きの際、本票を提示してください。



平成30年度4月入学
九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程) 一般選抜

写真票 (若松・東京)

受験番号	*B
氏名	
生年月日	
志望専攻	専攻
集合時間	10時・13時・時

写 真

- ◎半身脱帽正面向きで出願前3か月以内に撮影のもの
- ◎本欄と同形のもの(4.5cm×4.5cm)
- ◎写真裏面に氏名及び志望専攻を記入の上全面のりづけしてください

平成30年度4月入学 九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程)

入学願書 (社会人特別選抜)

第1回入学試験会場
若松(7/1) ・ 東京(6/30)
(○印で選択)

ふりがな						受験番号	* B	
氏名								
ローマ字表記								
性別	男・女	生年月日	昭和 平成	年	月	日生	本籍地	都道府県
現住所	〒 _____ TEL () メールアドレス							
受験のための連絡先	〒 _____ TEL () メールアドレス							
志望指導教員名 [注] 5参照								

現在の所属	企業等の名称								
	所属部課等								
	志望専攻の専門に関する経験及び職務内容等	昭和・平成	年	月	日	～	昭和・平成	年	月
学歴	年	月	国, 公, 私立	高等学校・高等専門学校卒業					
	年	月	国, 公, 私立	大学	学部	学科入学			
	年	月	国, 公, 私立	同上卒業					
	年	月	国, 公, 私立	大学大学院	研究科専攻入学				
	年	月	修士課程・博士前期課程						
	年	月	同上修了・修了見込						
職歴	年	月							
	年	月							
	年	月							

- [注]
- 願書は、インク又はボールペンを使用し、楷書で明記してください。
 - *印の箇所は、記入しないでください。
 - 学歴は、高等学校等から記入してください。
 - ◆印の箇所は、研究生等の経歴がある場合に記入してください。
 - 志望指導教員名は、付表「主要教育研究分野別一覧」から選択してください。
※印の教員を志望する場合は、事前に教務・入試係へ相談してください。

検定料納入証明書，あるいは，収納証明書は
下の太枠の中にはがれないようにしっかりと
貼り付けてください

<p>検定料納入証明書 または、収納証明書 貼り付け欄</p> <p>ゆうちょ銀行窓口， あるいは，コンビニ 端末で納付してくだ さい。</p> <p>検定料 30,000円</p> <p>検定料納入証明書に 受付局日附印が押印 されていない場合は 受理できないので特 に注意してくださ い。</p>

平成30年度4月入学
九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程) 社会人特別選抜
受験票 (若松・東京)

受験番号	*B
氏名	
生年月日	
志望専攻	専攻
集合時間	10時・13時・時

写 真
◎半身脱帽正面向きで出願前3 か月以内に撮影のもの
◎本欄と同形のもの(4.5cm× 4.5cm)
◎写真裏面に氏名及び志望専攻 を記入の上全面のりづけして ください

(注)

1. この受験票は、試験当日係員に提示してください。
2. 受験者は、掲示板及び係員の指示に従ってください。
3. 入学手続きの際、本票を提示してください。



平成30年度4月入学
九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程) 社会人特別選抜
写真票 (若松・東京)

受験番号	*B
氏名	
生年月日	
志望専攻	専攻
集合時間	10時・13時・時

写 真
◎半身脱帽正面向きで出願前3 か月以内に撮影のもの
◎本欄と同形のもの(4.5cm× 4.5cm)
◎写真裏面に氏名及び志望専攻 を記入の上全面のりづけして ください

平成30年度4月入学 九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程)

入学願書 (外国人留学生特別選抜)

第1回入学試験会場
若松(7/1) ・ 東京(6/30)
(○印で選択)

ふりがな					受験番号	* B
氏名						
ローマ字表記						
性別 SEX	男・女	生年月日 Date of Birth	年	月	日生	国籍
現住所 Mailing Address	〒 — TEL ()					
受験のための 連絡先	〒 — TEL ()					
出身学校	国・公・私立	大学	学部	学科		
	(その他 昭和・平成 (その他	年	月	日卒業・修了(見込み)		
出身学校	国・公・私立	大学大学院	研究科	専攻		
	(その他 昭和・平成 (その他	年	月	日卒業・修了(見込み)		
志望指導教員名 [注] 3参照						

学 歴	年	月～	年	月
	年	月～	年	月
	年	月～	年	月
	年	月～	年	月
	年	月～	年	月
職 歴	年	月～	年	月
	年	月～	年	月
	年	月～	年	月
	年	月～	年	月

- [注] 1. 願書は、インク又はボールペンを使用し、楷書で明記してください。
 2. *印の箇所は、記入しないでください。
 3. 志望指導教員名は、付表「主要教育研究分野別一覧」から選択してください。
 ※印の教員を志望する場合は、事前に教務・入試係へ相談してください。
 4. 学歴は、小学校等から記入してください。

検定料納入証明書，あるいは，収納証明書は
下の太枠の中にはがれないようにしっかりと
貼り付けてください

検定料納入証明書
または、収納証明書
貼り付け欄

ゆうちょ銀行窓口，
あるいは，コンビニ
端末で納付してくだ
さい。

検定料
30,000円

検定料納入証明書に
受付局日附印が押印
されていない場合は
受理できないので特
に注意してくださ
い。

平成30年度4月入学
九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程) 外国人留学生特別選抜

受験票 (若松・東京)

受験番号	*B
氏名	
生年月日	
志望専攻	専攻
集合時間	10時・13時・時

写 真

◎半身脱帽正面向きで出願前3
か月以内に撮影のもの

◎本欄と同形のもの(4.5cm×
4.5cm)

◎写真裏面に氏名及び志望専攻
を記入の上全面のりづけして
ください

(注)

1. この受験票は、試験当日係員に提示してください。
2. 受験者は、掲示板及び係員の指示に従ってください。
3. 入学手続きの際、本票を提示してください。

○

○

平成30年度4月入学
九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程) 外国人留学生特別選抜

写真票 (若松・東京)

受験番号	*B
氏名	
生年月日	
志望専攻	専攻
集合時間	10時・13時・時

写 真

◎半身脱帽正面向きで出願前3
か月以内に撮影のもの

◎本欄と同形のもの(4.5cm×
4.5cm)

◎写真裏面に氏名及び志望専攻
を記入の上全面のりづけして
ください

平成29年度10月入学 九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程)

入学願書 (一般選抜)

第1回入学試験会場
若松(7/1) ・ 東京(6/30)
(○印で選択)

ふりがな					受験番号	* B		
氏名								
ローマ字表記								
性別	男・女	生年月日	昭和 平成	年	月	日生	本籍地	都道府県
現住所	〒 — TEL () メールアドレス							
受験のための連絡先	〒 — TEL () メールアドレス							
志望指導教員名 [注] 5参照								

学歴	年 月 国, 公, 私立	高等学校・高等専門学校卒業
	年 月 国, 公, 私立	大学 学部 学科入学
	年 月 国, 公, 私立	同上卒業・修了
	年 月 国, 公, 私立 修士課程・博士前期課程	大学大学院 研究科 専攻入学
	年 月	同上修了・修了見込
◆	年 月	
職歴	年 月	
	年 月	
	年 月	

- [注] 1. 願書は、インク又はボールペンを使用し、楷書で明記してください。
 2. *印の箇所は、記入しないでください。
 3. 学歴は、高等学校等から記入してください。
 4. ◆印の箇所は、研究生等の経歴がある場合に記入してください。
 5. 志望指導教員名は、付表「主要教育研究分野別一覧」から選択してください。
 ※印の教員を志望する場合は、事前に教務・入試係へ相談してください。

検定料納入証明書，あるいは，収納証明書は
下の太枠の中にはがれないようにしっかりと
貼り付けてください

検定料納入証明書
または、収納証明書
貼り付け欄

ゆうちょ銀行窓口，
あるいは，コンビニ
端末で納付してくだ
さい。

検定料
30,000円

検定料納入証明書に
受付局日附印が押印
されていない場合は
受理できないので特
に注意してくださ
い。

平成29年度10月入学
九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程) 一般選抜

受験票 (若松・東京)

受験番号	*B
氏名	
生年月日	
志望専攻	専攻
集合時間	10時・13時・時

写 真

- ◎半身脱帽正面向きで出願前3か月以内に撮影のもの
- ◎本欄と同形のもの(4.5cm×4.5cm)
- ◎写真裏面に氏名及び志望専攻を記入の上全面のりづけしてください

(注)

1. この受験票は、試験当日係員に提示してください。
2. 受験者は、掲示板及び係員の指示に従ってください。
3. 入学手続きの際、本票を提示してください。



平成29年度10月入学
九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程) 一般選抜

写真票 (若松・東京)

受験番号	*B
氏名	
生年月日	
志望専攻	専攻
集合時間	10時・13時・時

写 真

- ◎半身脱帽正面向きで出願前3か月以内に撮影のもの
- ◎本欄と同形のもの(4.5cm×4.5cm)
- ◎写真裏面に氏名及び志望専攻を記入の上全面のりづけしてください

平成29年度10月入学 九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程)

入学願書 (社会人特別選抜)

第1回入学試験会場
若松(7/1) ・ 東京(6/30)
(○印で選択)

ふりがな						受験番号	* B	
氏名								
ローマ字表記								
性別	男・女	生年月日	昭和 平成	年	月	日生	本籍地	都道府県
現住所	〒 _____ TEL () メールアドレス							
受験のための連絡先	〒 _____ TEL () メールアドレス							
志望指導教員名 [注] 5参照								

現在の所属	企業等の名称						
	所属部課等						
	志望専攻の専門に関する経験及び職務内容等	昭和・平成 年 月 日 ~ 昭和・平成 年 月 日 (職務又は研究内容)					
学歴	年 月 国, 公, 私立	高等学校・高等専門学校卒業					
	年 月 国, 公, 私立	大学	学部	学科入学			
	年 月 国, 公, 私立	同上卒業					
	年 月 国, 公, 私立	大学大学院	研究科専攻入学				
	年 月	同上修了・修了見込					
◆	年 月						
職歴	年 月						
	年 月						
	年 月						

- [注]
- 願書は、インク又はボールペンを使用し、楷書で明記してください。
 - *印の箇所は、記入しないでください。
 - 学歴は、高等学校等から記入してください。
 - ◆印の箇所は、研究生等の経歴がある場合に記入してください。
 - 志望指導教員名は、付表「主要教育研究分野別一覧」から選択してください。
※印の教員を志望する場合は、事前に教務・入試係へ相談してください。

検定料納入証明書，あるいは，収納証明書は
下の太枠の中にはがれないようにしっかりと
貼り付けてください

検定料納入証明書
または、収納証明書
貼り付け欄

ゆうちょ銀行窓口，
あるいは，コンビニ
端末で納付してくだ
さい。

検定料
30,000円

検定料納入証明書に
受付局日附印が押印
されていない場合は
受理できないので特
に注意してくださ
い。

平成29年度10月入学
九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程) 社会人特別選抜
受験票 (若松・東京)

受験番号	*B
氏名	
生年月日	
志望専攻	専攻
集合時間	10時・13時・時

写 真
◎半身脱帽正面向きで出願前3 か月以内に撮影のもの
◎本欄と同形のもの(4.5cm× 4.5cm)
◎写真裏面に氏名及び志望専攻 を記入の上全面のりづけして ください

(注)

1. この受験票は、試験当日係員に提示してください。
2. 受験者は、掲示板及び係員の指示に従ってください。
3. 入学手続きの際、本票を提示してください。



平成29年度10月入学
九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程) 社会人特別選抜
写真票 (若松・東京)

受験番号	*B
氏名	
生年月日	
志望専攻	専攻
集合時間	10時・13時・時

写 真
◎半身脱帽正面向きで出願前3 か月以内に撮影のもの
◎本欄と同形のもの(4.5cm× 4.5cm)
◎写真裏面に氏名及び志望専攻 を記入の上全面のりづけして ください

平成29年度10月入学 九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程)

入学願書 (外国人留学生特別選抜)

第1回入学試験会場
若松(7/1) ・ 東京(6/30)
(○印で選択)

ふりがな					受験番号	* B
氏名						
ローマ字表記						
性別 SEX	男・女	生年月日 Date of Birth	年	月	日生	国籍
現住所 Mailing Address	〒 — TEL ()					
受験のための 連絡先	〒 — TEL ()					
出身学校	国・公・私立	大学	学部	学科		
	(その他 昭和・平成 (その他	年	月	日卒業・修了(見込み)		
出身学校	国・公・私立	大学大学院	研究科	専攻		
	(その他 昭和・平成 (その他	年	月	日卒業・修了(見込み)		
志望指導教員名 [注] 3参照						

学 歴	年	月	～	年	月
	年	月	～	年	月
	年	月	～	年	月
	年	月	～	年	月
職 歴	年	月	～	年	月
	年	月	～	年	月
	年	月	～	年	月
	年	月	～	年	月

- [注] 1. 願書は、インク又はボールペンを使用し、楷書で明記してください。
 2. *印の箇所は、記入しないでください。
 3. 志望指導教員名は、付表「主要教育研究分野別一覧」から選択してください。
 ※印の教員を志望する場合は、事前に教務・入試係へ相談してください。
 4. 学歴は、小学校等から記入してください。

検定料納入証明書，あるいは，収納証明書は
下の太枠の中にはがれないようにしっかりと
貼り付けてください

検定料納入証明書
または、収納証明書
貼り付け欄

ゆうちょ銀行窓口，
あるいは，コンビニ
端末で納付してくだ
さい。

検定料
30,000円

検定料納入証明書に
受付局日附印が押印
されていない場合は
受理できないので特
に注意してくださ
い。

平成29年度10月入学
九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程) 外国人留学生特別選抜

受験票 (若松・東京)

受験番号	*B
氏名	
生年月日	
志望専攻	専攻
集合時間	10時・13時・時

写 真

◎半身脱帽正面向きで出願前3
か月以内に撮影のもの

◎本欄と同形のもの(4.5cm×
4.5cm)

◎写真裏面に氏名及び志望専攻
を記入の上全面のりづけして
ください

(注)

1. この受験票は、試験当日係員に提示してください。
2. 受験者は、掲示板及び係員の指示に従ってください。
3. 入学手続きの際、本票を提示してください。

○

○

平成29年度10月入学
九州工業大学大学院生命体工学研究科
(博士後期課程) 外国人留学生特別選抜

写真票 (若松・東京)

受験番号	*B
氏名	
生年月日	
志望専攻	専攻
集合時間	10時・13時・時

写 真

◎半身脱帽正面向きで出願前3
か月以内に撮影のもの

◎本欄と同形のもの(4.5cm×
4.5cm)

◎写真裏面に氏名及び志望専攻
を記入の上全面のりづけして
ください

(別紙様式1)

〔出願資格審査用〕

平成 年 月 日

出願資格審査申請書

九州工業大学長 殿

志願者 ふりがな 氏 名 印

生年月日 年 月 日生

今般、貴大学大学院生命体工学研究科博士後期課程生命体工学専攻に入学を
志願するにあたり、出願資格の審査を受けたく、所定の書類を添えて申請いた
しますので、よろしくお願ひします。

受付 番号	
----------	--

(別紙様式2)

(一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜)

[出願資格審査用]

九州工業大学大学院生命体工学研究科
博士後期課程 出願資格審査調書

受付 番号					
志望指導教員名		現 職 (所属・職名)		所在地 連絡先	TEL
氏 名		現住所			TEL
生年月日(年齢)	年 月 日生 (歳)	※資格審査申請書提出時の年齢を記入してください。			
年 月	学 歴	(高等学校卒業以後を記入してください)			
年 月	職 歴				
年 月	学会、その他における活動、貢献、その他特記すべき事項				

研究歴申告書

氏 名

在籍した機関、部局名 及びその時の身分等 研究期間（年月）	研究テーマ及びその内容等

修士論文の概要

No. _____

志望 指導教員名		氏名	
-------------	--	----	--

研究（希望）計画書

志望指導教員名 _____
氏 名 _____

あて名票

おところ：Address

おなまえ：Name

様

電話番号：Telephone Number

※

おところ：Address

おなまえ：Name

様

電話番号：Telephone Number

※

おところ：Address

おなまえ：Name

様

電話番号：Telephone Number

※

- ・本人宛に合格通知，入学手続等の郵便物が確実に届くよう，住所・氏名・郵便番号・電話番号等を4箇所とも記入してください。
- ・住所がアパート・団地等の場合はアパート名・棟番号等も記入してください。
- ・※欄は記入しないでください。
- ・きりとり線からのみ切り離してください。

※このあて名票は，上記書類送付の目的以外には使用しません。

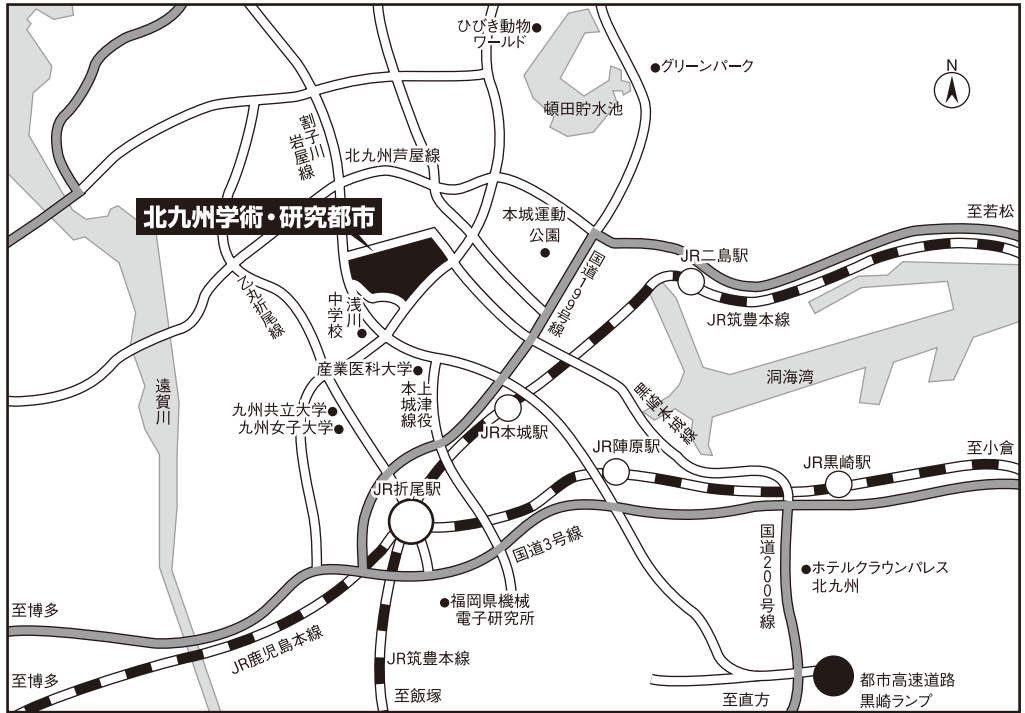
(合格通知用)

(入学手続用)

きりとりせ

■周辺案内図

試験場案内図
若松
キャンパス



■建物配置図



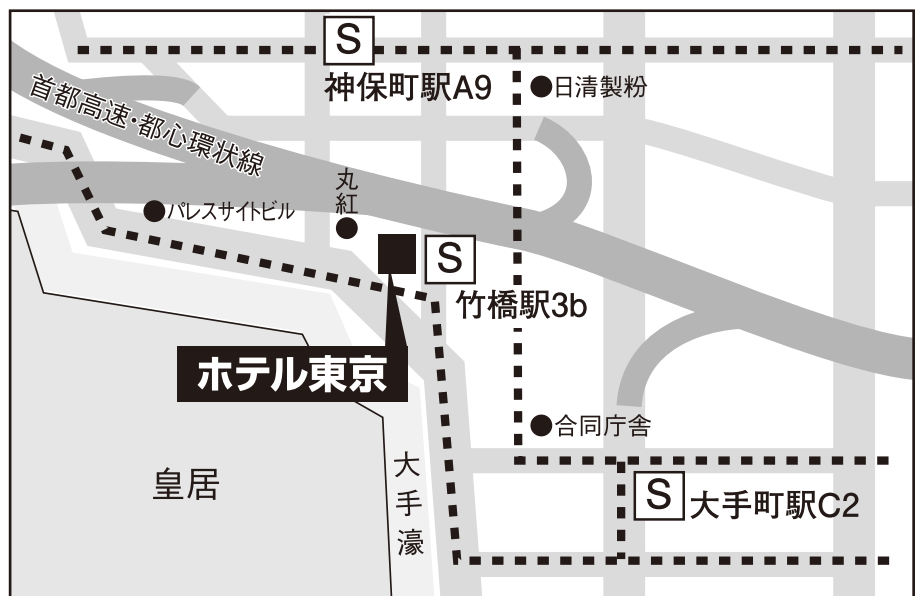
交通機関

1. JR「折尾駅」から北九州市営バス「折尾駅西口」より、③③、③⑤、⑥③、⑥④に乗車「学研都市ひびきの」下車(約20分)
2. JR「折尾駅」よりタクシー利用(約10分)

試験場案内図
KKR
ホテル東京

交通機関

竹橋駅(東京メトロ東西線)下車、専用通路にて3b出口直結。
または大手町駅(東京メトロ千代田線)C2出口・神保町駅(都営地下鉄)A9出口よりそれぞれ徒歩5分



九州工業大学大学院生命体工学研究科教務・入試係

〒808-0196 北九州市若松区ひびきの2番4号

TEL: 093-695-6006 (直通)

E-mail: sei-nyushi@jimu.kyutech.ac.jp

<http://www.kyutech.ac.jp/>